

平成28年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔医学部（保健学科） 作業療法学専攻〕

プログラムの名称（和文） （英文）	作業療法学プログラム Program of Occupational Therapy
<p>1. 取得できる学位 学士（保健学） 132単位以上（教養的教育科目40単位以上，専門基礎科目26単位以上，専門科目66単位）</p>	
<p>2. 概要 保健学科作業療法学専攻が提供する教育プログラムは，学生が，将来，医学・医療・保健・福祉等の分野で作業療法士として貢献し，作業療法学の発展に寄与できるよう，卒業時に学習の成果（項目8）で挙げている基本的知識，基本的技能および基本的態度・習慣の全項目を習得することを目標とする。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 作業療法学プログラムでは，専門職の作業療法士としての基礎知識，技能，態度を修得し，さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。そのため，本プログラムでは，以下の能力を身につけ，教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（作業療法学）」の称号を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業的存在としての人間を探求し，ひとが作業を通して健康で幸福な生活を行うための種々の理論や技術が獲得できる。 ・作業療法の実践に必要な基本的知識と技能を修得することに加え，作業遂行の問題を的確に捉え，その解決のために広範な知識を統合する能力を身につけることができる。 ・人々の権利や主体性の尊重し，臨床における倫理的，誠実的，共感的，献身的な態度ならびに他職種との協力や専門職発展への献身などに対応できる。 ・変化する社会的ニーズを的確に捉え，生涯にわたって自らの知識，技術，態度を評価し，自ら学び続けるしなやかで創造的な姿勢と習慣を身につけることができる。 	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 作業療法学プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために，次の方針のもとに教育課程を編成し，実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次には，教養教育科目を通して教養，基礎学力の醸成を行うと同時に，「作業療法学概論」「臨床学入門」，「リハビリテーション概論」などの専門基礎科目の一部も開講され，作業療法的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育む。AO入試制度で博士課程前期の入学が予定されている対象者に対して，1年次より各研究室を見学する時間を設け，早期に研究を体験し目的意識を持って学士教育課程を履修することを図る。 ・2年次には，作業療法学の学問的背景や基礎となる授業が中心となり，主に「人体構造学」「生理機能学」「運動学」「リハビリテーション整形外科学」「リハビリテーション精神医学」「リハビリテーション神経内科学」など必修科目が開講され，これらの科目を通して専門分野の基礎知識と技能・態度を修得する。また，2年次より国際文化，科学探索，地域交流を重視した選択必修科目を開講することで，それぞれの領域に特化した専門知識や技術を習得する。 	

- ・3年次には、主に「身体障害作業療法学」「精神障害作業療法学」「発達障害作業療法学」「老年期障害作業療法学」「日常生活活動学」などの専門科目が開講されており、作業療法を展開するために必要となる、情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度を修得する。さらに、夏期の短期実習が計画されており、学問分野と実務との関連についての理解を深め、より具体的な課題への取り組み方について学ぶことができる。
- ・4年次には、長期実習が計画されている。3年次までの教育課程で学んだ知識、技能、態度と作業療法過程を、実習施設において指導者による指導を受けながら作業療法の実践を行い、実践に適合した知識、技能、態度の統合を目指す。こうした経験を重ねることで、保健・医療・福祉に関わる作業療法の専門職としての資質と自覚を高める。また、卒業研究を通して、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身に付け、作業療法学の学問として意義と重要性についても学ぶ。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）から作業療法学プログラムは開始される。学生は、入学時に次に定める高校までの履修科目に習熟していることを想定している。数学基礎概論、初修物理学、初修生物学の単位を修得すべき者は保健学科において指定する。ただし、卒業要件単位には含まない。A0入試制度（大学院進学型）で選抜された学生は、学士課程卒業に続いて大学院博士課程前期への進学を想定している。広島大学在学の全学の学生に対しては転学部または転学科の規程に基づき別途定める。本プログラムの定員（受け入れ上限数）は30名である。

6. 取得可能な資格

作業療法士国家試験受験資格

7. 授業科目及び授業内容

授業科目については別紙1の履修表を、シラバスについては「Myもみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

○知識・理解

1. 人体の構造と機能に関する知識・理解
2. 病因と病態に関する知識・理解
3. 保健・医療システムに関する知識・理解
4. 作業療法の学問的背景に関する知識・理解
5. 外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解

○能力・技能

1. 人体の構造と機能に関する知識・理科の展開
2. 作業療法の学問的背景に関する知識・理解の展開
3. 作業療法と障害に関する知識・理解の展開
4. コミュニケーション能力に関する知識・理解の展開
5. 作業療法の展開に必要な情報の収集・記録ができる
6. 作業療法プログラムの立案・実践ができる

○総合的な力

1. 保健医療における倫理的判断に基づいた行動
2. 医療・保健・福祉・教育への探求心とそれに取り組む積極的態度
3. 医療チームの一員としてふさわしい協調的態度とコミュニケーション能力
4. 総合的かつ科学的な問題解決能力

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

○位置づけ（目的）

それまでに学習した作業療法の総ての知識を応用し、臨床（社会）への貢献について考える（作業療法の臨床的意義の吟味）。あわせて科学的根拠に基づいた問題解決能力を習得し、専門職の質の向上を図る態度と技能を養う（専門性の確立）。

○概要

①作業療法の臨床的意義の吟味

自ら設定したテーマについて文献検索活動を通して、作業療法及び臨床における意義を吟味する。

②科学的根拠に基づいた研究活動の体験・習得

自らの研究テーマに沿って、研究計画立案、研究実施、論文作成、口頭発表という一連の研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、態度、技能を習得する。

○配属時期と配属方法

3年次後期より仮配属し、4年次進級時に本配属となる。配属方法は学生からの研究登録票を基に、学生提出の研究テーマと教員の専門を考慮して決定される。

10. 責任体制

P D C A 責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

作業療法学専攻会議、保健学科会議とその構成員により実施されている。